第3学年 英語科学習指導案

日 時 平成 24 年 9 月 27 日 (木) 5 校時 学 級 3 年 A 組 (男子 13 名女子 15 名 計 28 名) 授業者 續石 真史

1 単元名 PROGRAM 5 Sushi-Go-Around in the World (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)

2 単元の目標

- ・自分で聞いたり調べたりしながら積極的に英文を書く。
- ・小グループで、大野を紹介するまとまった英文を書く。
- ・教科書の本文の概要を決められた時間内で把握する。
- ・各ページの本文の内容を正しく理解する。
- ・"call + ~(人など) + ... (名前)"の意味・形・用法を理解する。
- ・"make + ~(人など) + …(形容詞)"の意味・形・用法を理解する。
- ・when + 主語 + 動詞などの間接疑問文の意味・形・用法を理解する。

3 単元について

(1) 教材観

この単元では題材として、回転寿司が取り上げられている。日本食ブームが世界で進む中、その先駆けとなった回転寿司は、世界の主要な都市、あるいは主要な空港で見かけられるようになった。しかしながら、日本の回転寿司がいつ頃、どのようなきっかけで始まったのか、日本食の人気の秘密がどこにあるのか、などはあまり知られていない。また、他の日本食と同様に、海外での回転寿司は、日本のものとずいぶん変わって現地化したものも見られる。本プログラムでは、「食」に関するテーマを中心に、食を通した異文化理解を促進したり、さらに日本文化について英語で世界に発信したりできるようになることをねらっている。

新出文型としては、SVOC「call + ~ (人など) + … (名前)」「make + ~ (人など) + … (名前)」や、間接疑問詞「when など+主語+動詞」を扱う。call や make を使った表現は、見てすぐに分からないものや、それがどんなものであるかを人に紹介するときに使える表現である。自分たちの住む大野を、それらの表現を使ってまとまった英文を書いて紹介するパンフレットを作ることをゴールに設定し、書く力をつけさせることを目指して指導していきたい。

(2) 生徒観

落ち着いた雰囲気で学習に取り組める学級で、積極的な反応は多くはないが、真面目に話を聞き、音読や英語を使う活動に意欲的に取り組む生徒が多くみられる。昨年度の学習定着度状況調査の結果から、「与えられた I want to で始まる文を書くことができる」、「自分が行ってみたい国内の場所についてその理由や説明などを含めて、3文以上で内容につながりを書くことができる」の項目で、特にも落ち込みがみられた。本単元での大野のことを伝えるまとまった英文を考える活動等でも困難が予想される。そこで、小グループで活動に取り組み、教え合い、意見を交流し合いながら、何とか協力して英文を完成させることで、生徒たちにみんなで学習すればわかる、楽しい、できる、という達成

感を感じさせたい。また、個別な支援を必要とする生徒数名には、ペア学習やグループ学習で他の生徒に支援させることで学び合いの場を作り、双方が学ぶ場としたい。また、机間支援を行い、個別でのサポートもしっかり行いたい。

(3) 指導の構想

書く力を育てることをねらい、本単元で学習した文法事項である call AB や make AB を使い、自分たちの住んでいる大野のことを伝えるパンフレット作りを通して、自分たちの地域について知り、自分たちの身近なものについて説明する英文を書かせることをゴールとしたい。

4 指導と評価の計画(10時間)

•	単元のゴール提示、新出文型 call + ~(人など) + to +…(名前)の理解と運用 ・・1 時間
•	大介とパットの会話を読み取る ・・・・・・・・・・・・・・・・1 時間
•	新出文型 " $make + \sim (人など) + \cdots$ (形容詞)の理解と運用 ・・・・・・・・・・1 時間
•	回転寿司の起源や特徴について読み取る ・・・・・・・・・・・・・・・1 時間
•	新出文型、間接疑問文"when など+主語+動詞の理解と運用 ・・・・・・・1 時間
•	世界の日本食ブームの背景について、正しく読み取る ・・・・・・・・・1 時間
•	大野を紹介するパンフレットを作るための調べ学習 ・・・・・・・・・・1 時間
•	大野を紹介するパンフレットを作る ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1 時間 (本時)
•	自分たちが書いたパンフレットの内容を発表する ・・・・・・・・・・1 時間
	単元テスト ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 時間

		評価規準・評価方法			
時	学習内容	コミュニケーショ	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化につい
間		ンへの関心・意			ての知識・理解
		欲・態度			
1	call + ~(人など)		call + ~(人など)		新出文型 call + ~
	+ to(名前)につ		+ to +(名前)を		(人など) + to
	いて理解する。		使って英文を話し		+(名前)を理解
			たり書いたりする		し、人に説明でき
			ことができる。		る。
			後日ペーパーテス		後日ペーパーテス
			7		F
2	大介とパットの会			あらすじや大切な	
	話を読み取る			部分を読み取るこ	
				とができる。	
				ワークシート	
3	新出文型 make+		make + ~(人な		make + ~(人な
	~(人など)+(形		ど)+…(形容詞)を		ど)+(形容詞)を
	容詞)の理解と練		使って英文を話し		理解し、人に説明

			T		
	習		たり書いたりする		できる。
			ことができる。		
					後日ペーパーテス
					}
			 		'
4	 回転寿司の起源や		1	本文のあらすじや	
4					
	特徴について読み			大切な部分などを	
	取る			読み取ることがで	
				きる。	
				ワークシート	
5	新出文型、間接疑		新出文型、間接疑		間接疑問文"when
	問文 when など+		問文 when など+		など+主語+動詞
	主語+動詞の理解		主語+動詞を使っ		を理解し、人に説
	と運用		て英文を書いたり		明できる。
			話したりできる。		後日ペーパーテス
			後日ペーパーテス		F
			 		
6	世界の日本食ブー			語句や表現、文法	
	ムの背景につい			事項などの知識を	
	て、正しく読み取			活用して内容を正	
	る。			しく読み取ること	
	<i>`</i> √°			ができる。	
				ワークシート	
	1.四マナ 4万人・トラー。	ハルさみ、マウチ		リークシート	
7		分からない所を調			
	ンフレット作りの				
	ための調べ学習	ながら積極的に調			
		べている。			
		活動の観察			
8	大野を紹介するパ	分からなところを	大野を紹介するま		
本時	ンフレットを書く	調べたり聞いたり	とまった英文を書		
		しながら積極的に	くことができる。		
		英文を書こうとし			
		ている。			
		活動の観察	作品の評価		
9	書いたパンフレッ		聞き手を意識し		
	トの内容の発表		て、強調したり繰		
	1 1 1		り返したりして話		
			すことができる。		
			発表チェック		

1 0	単元テスト	場面を与えて適当	150語程度の英	call A B, make A
		な表現を書くこと	文を3分以内で内	B, 間接疑問文の
		ができる。	容を読み取ること	問題に正しく答え
			ができる。	ることができる。

5 本時について

(1) 本時の目標

小グループで協力して大野を紹介する英語のパンフレットを作ろう。

(2) 本時の評価規準

- ・わからない所を調べたり聞いたりしながら積極的に英文を書いている。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- ・大野を紹介するまとまった英文を書くことができる。【外国語表現の能力】

(3) 本時の指導構想

①学び合いについて

本単元では、 $call + \sim (\Lambda x E) + ...($ 名前)、 $make + \sim (\Lambda x E) + ...($ 形容詞)、間接疑問文を学習した。それらの文法事項を使い、身近な大野のことを紹介するパンフレットを作らせる。 $4 \land 1$ 組の小グループでの活動とし、お互いの意見の学び合いの場とする。小グループで協力活動することで英語が苦手な生徒たちも授業に参加させ、教えてもらいながらすすめることで「できた」「わかった」という思いを授業で実感させたい。また、英語が苦手な生徒の中にも、調べることが得意な生徒、大野のことについてよく知っている生徒が積極的に活動に参加することを期待する。小グループの編成は、できる生徒ができない生徒からも学ぶことができるよう、工夫して設定したい。

②振り返りについて

授業の最後には、何を学んだか、どう感じたか、これからどうするかを振り返らせ、分かったこと、できたことなどを生徒たちに実感させ、次の意欲につなげたい。また、授業の最後に、次の時間の課題を小グループで書いたパンフレットの英文の発表であることを確認し、「これからどうするか」には「発表をしっかりできるように、何度も練習してくる」などの答えを期待する。

6 本時の展開

段	過		指導上の留意点		
階	程	学習活動	評価[方法]【観点】	学び合い を通して、	
				ねらいにせまる手だて	
		1 あいさつ			
	帯活動	2 Warm-up		これから学ぼうとす	
		keyword game		る意欲づけをする	
導		キーワードの単語を読んだら消しゴムを			
入		つかむ活動で、ウォームアップを兼ねて			
7		新出語句の読みを覚える。			
分	課題	3 本時の学習内容と目標確認			
	超把握	本時の目標を確認する。			
	握		Ly 0,, 12167 >		
	課	Goal:小グループで協力して大野を紹介	う るハンノレットを作ろう		
	題確	4 モデル文の概要把握		・自分たちが英文を書	
	認	ALT が話した英文を紹介のモデル文と		くために、どんな順番	
		し、何がどんな情報が書かれているか読		で英文が話されている	
	課題追究	み取る。		かを考えさせる。	
		5 小グループで大野を紹介するパンフレ	わからない所を調べたり	・4人小グループ	
		ットを作る。	聞いたりしながら積極的	・机間指導を行い、つ	
			に英文を書いている。[活	まずいているところを	
			動の観察]【意・関・態】	支援する。	
	学		大野を紹介するまとまっ		
展	び		た英文を書くことができ		
開	合い		る。[作品の評価] 【外国語		
40			表現】		
分		6 発表練習		教師のチェックを受	
		4人1組の小グループで発表練習をする。		けた後に、4人小グル	
				ープで発表練習をす	
				る。	
		7 課題提示と次回予告			
ま		次回までの課題と次回の予告をする。			
と	1 ι⊶	8 自己評価			
め	振り	ワークシートで自己評価をする。		・振り返り	
	返り	①何を学んだか		ワークシートに記入	
3		②どう感じたか		3段階で記述する。	
分		③これからどうするか			
		9 あいさつ			
		終わりのあいさつをする。			